

これからの地域の専門職を地域で育てるワークショップ ～在宅医療・介護に従事する新卒専門職と在宅医療・ 介護に関心のある卒前の学生を対象に～

山西 友規 ●訪問看護ステーション相扶 訪問看護師



新しいツールと新しいつながりでこれからの時代を共に

1. 背景と目的

広島県北は高齢化と過疎化が深刻で、2045年に向け、在宅医療・介護の充実と地域包括ケアが叫ばれて久しい。それゆえ、もはや各施設内だけ、または専門職だけの育成ではなく、まちづくりと一体化したそれらの専門職の人材確保及び人材の質的向上は喫緊の課題である。そこで、新卒者や学生の支援や交流にとどまらず、まちづくりを実践している異業種、すなわち同じく次世代を担う地域住民同士としての対話が有用である。

そこで、次の3点を目的に研修を計画した。

- ①在宅医療・介護に従事する新卒専門職が、継続して従事するためのモチベーションを高める。
- ②在宅医療・介護に関心のある学生が、卒前に在宅の現場について知り、就職の意欲を高める。
- ③専門職同士だけでなく、地域でまちづくりを実践する異業種と交流を図る。

2. 取組みの方法／期待される成果

対象は、在宅医療・介護に従事する新卒専門職（ファーストキャリアから3年以内と定義）とその職種に関心のある学生（高校生を含む）、20名程度とする。在宅医療・介護に従事する上で求められるあり方やコミュニケーションについ

て、言語化および体験する体験型・参加型の1泊2日研修を行う。それにはシンポジウム形式やボディワーク、インタビューワークなどの参加型の学習スタイルを用いる。各セッションで、インプット作業の後にアウトプット作業を入れ、言語化・意識化を図る。参加者同士の交流とリラックスを図るために、アイスブレイク作業を研修中、随時入れる。また、食事準備や片付けなどの作業を協働して行う。

期待される成果は次の3点である。①在宅医療・介護に従事する新卒専門職、およびその職種に関心の高い学生が、在宅現場での課題ややりがいと共有する。②様々な地域や職種の新卒者と学生が交流し、各領域の横断的な視点を養い有機的な連携を図る。③地域に密着した活動を体感し、在宅医療・介護に従事する際に必要な視点や態度を学ぶ。

地域で働く以上、どの専門職も多職種連携や地域の包括的なニーズに応える実践を求められる。新卒または学生がゆえに、多角的な視野で捉えにくく、他分野への関心は希薄になる。研修を通して、各自専門職のアイデンティティを育て、地域のつながりを体感し、今後の実践現場での情報交換や人となりを知る機会となる。